



連歌胸中集

宗祇 心教

宗長 兼載

伊地知文庫
文庫20
230



230

連新輝中集

文庫20
230

230

○心敬ヨリ宗祇へ指南

心敬所々返答 才二

○兼載心敬ヨリ因書

兼載心敬僧都庭訓

○宗長宗祇一因書てよハ

宗長 畠山信重 次郎へ返札

奇仙連方事アリ

○分葉宗祇之中てよハ

○心敬口傳抄へ板書

○連歎六義并切字宗長作

飛花石事

宗祇禪作(心敬ヨリ)及札の内拔書



一 心ツ高リ調リ艶ニ勾ノ面白ク傍ラ成シテ偏ニ位ニ心ツ
カケ面影品ツ。古トシ侍ルヘシ御数寄ノ感情ニトシ覺見
ノ胸臆ヲキナラシ侍ルヤコガニキ事ニ侍ルハ互ノ御覺
覺侍ルバカリ也

一 脇ノ勾下ノ勾扱ハサニカシトヤカニアレクヤ大方秋林之
勾ニ厩床新扱ニ心ハタリ侍ラ子尼付ル好士多ク
見ヘ侍ル死脇ノ勾ニツブカクノ博ニ入シテ錯採ノ物ナレハ
中ニ作者纏頭スルニヤ

一 水邊杯神ノ物ニハ用テ付テ用ノ物ニ軒ヲ付ケ度人

拙者トトキノ歎ハ物ノ一ニア作ラシクニヨキ物ヲニフニフ
セ入シ侍レバホニフカクシクニヤト

一 顔面モニアアヤニテセストレハニアキクテハトモレハ
文ニモニ不^レ改^ス是^レ過^トトモリ大旨は道ハ郭^ニ陳^レ上ニ是^レ能ハアラ
ハレガタキノ際ニレハ佛法ニモ法文流^ル石^ノ則ノ決^シ決^シ是^レ天
悟^レハカリコトニ近代ノ歎拙者如キハ談^ル活^ルノ決^シ行^ルノ方^キハ
忘^ルレテハレハ^レ名^ラノ際^ニテ^レ當^ルルノ^レ塵^ヲ塵^ヲ
毎々ノ事^ニハ^レ納^レ得^ル人多^カレニヤレ比ノ^レ歎^ハ名^ノ通^リハ
押^レクテ^レ偏^ニ名^別ト^深リ^取リ^キレハ^レ也^也抄^レ合^レ物
コリ^レ下^下ノク^サリ^ガニ^露ガ^カリ^モ露^ガカ^リヨリ^レ
連^スク^ニラ^ハ有^ヘカ^ラス^ビヨ^リハ^レ也^也抄^レ免^ル改^メ改^メ集^メト^ニ

事^ヲリ^ツク^シテ^レ是^レハ^レ也^也抄^レ善^阿阿^阿信^照救^救
トト^ノ以^レ推^リ可^キ尋^テ苛^ク比^ノ面^影ニ^達ニ^至テ^レ也^也
近^キ比^歎ニ^ハ宗^碩智^隱ト^トノ夕^ハ方^ノカ^タ源^氏信^芳
物^語ト^トノ面^影ガ^レ見^ル也^也

一首ニ接家紅葉ノ比石山(波部)の夕夕ニ

月ハ山^ノ風^ヲ何^レ也^也二^日海

世^ニ比^類大^ヤリ^ニ奇^特粉^骨カ^ボロ^ケニ^ハ也^也カ^タ
ニヤ^ハカ^ラフ^ムカ^レノ^鏡山^ニ上^山ニ^ハ月^キラ^メキ^ノホ^リノ^方モ
葉^下ノ^湖水^ノ葉^波ハ^ホリ^クラ^クラ^ク雨^レカ^トア^レ也^也
信^レ氣^色成^ニ方^ニト^リノ^感情^ヲカ^レ同^キ比^東山^ノ
智^思院^ト云^レ山^寺ニ^テ伊^多爰^夕

鳴や七日都と庭の時を

大系ニ救済カ彦吾ツトブラじ玉ラぬ爰句

いけれらん嵐の紅葉の雪

當凡ノ景感情アテリゆりしトニカハシドびぬ文字リ
近クハんく口惜トヤ合作リトコ

一 上右ニ救済ノミトニ合作リシモツシナヘテ毎句爰邊
アハカラス其比ハ未トヨリ万ツ禍ヲラザル事ノミ
トノ約んニ救済ガウザニ更ニ私ナリ大トカニサハブキ
ニラサゲナキ作者誠ニ乞ミトニ合作リシモツシナヘテ
句ノ方ハ水乞信懸トトニハ違ニラリし約んニハ乞信
懸カトトテ人ノ信リゆりしハ

村西の家の一々よ鐘ナリて

却テノ山ヨリナリてかきとんて

を山の雲の羽よ約たりして

一 河内良河周河トト玄妙ニ乞ミガニシク私ナキ約んハ
北野ノ行成河ノ波多野ノ平井琳河林トテノミシリ
約リシ乞ミトカヤセヨリ約ンニツキ肥色ドリタル物ノ
ミトニ約ントセアヒヨリメスサシ約ンニ用心ナク乞
行キ約ン程ニ河内スナシモラ約ンハ
一 中古ニ凡ク屋主真下満屋ニトスル約ン撰行卷
主ハ前ノ心ツハ忘テ只我句ノミツリ面カサリミ
云句ノ眼ツハウシナリモ比ヨリ諸人偏ニ有ノ心

忘し只ナラハ是偽れトリこん之タリト道ハ是ガ我ガ
魂ガ者レワヤシカニ位ガキ作者之真下スゴブル嗜
一ノ整トス偽れセキ也ナリト死ガニキ故士ハ之スト

一上古ノ名ヲ得タル中ニ極ラ不堪ト下ノ人諸道ニ多ク

一ナレハ重人ハ十年ニ交賢人ハ五百年ニ交アリト之見
一夫ハ子コノムクノスカリ初心ノ比半ノ比老後ニ交シ飛レ

物ニラハ偽れセキ初心ノ時ハ用心修作ナリヲタリトニ結構
西白リ宗トシテ心ヲ一ドニ偽リ中ハ比ヨリ内雅ニ修
行ニ云出レテ置ル曲ニ入ラズアルハ夕ニモシテ行アルハ
致ニナシトシテ控リルホリ忘レ或ウワリモス或ウクニ

一ニキ方色イワシセヤテシウラス老後ニハ何ラモシラニ

一安ノ十軒ヲウラヤニ教示ク又道ヲ旨トシモレニ

一偽レ化レハ道ハ利根戒カキキテ卒介無教

一奇ノトモカラカアノ外道魔障トスルハ偽リ如何ガカ

一リモ愚鈍ノ人抱心ニ思入アルハ心ヲカキルノ中一ノ室ト

一是レ偽レ文ニモ血ニ氣ノ勇者仁義ノ勇者ト云リ仁義ノ

一勇者ヲハ如何モホメ血ニ氣ノ勇者ヲハ嫉レ偽レト也

一利根人ハ入スギ思入又ヨリ多クニ過リハ不及トト

一自他ノ整西白リ奇特ノ夕迄ラ之ニ及リ偽レニヤ

一多トリ為ダニ迄ニテ更ニラシノ器給唐物ハ之ニ

一偽ラヌトナシハ心ノ連テ深詞位ノ方ハ偏

スルウセヨリトウフ人ハナリ後成之後ホリ新テ
曰深ノ後ホリハスヘテホリ知又作者ノ其理ハ毎々
ニ由ヨリコノニキホリノニ依リ信シテト有リガタ
キ洞之艶ニフシノ物ハカナキスソフクシタレヨリ
之成ヘシヨリ所用金言ナレト之

一 凡種々ノ抄物ニ由ラヌ好士公ニ下ノヨリ多ト之使
行ノ自知ノス夫ナラヘテカ分ケ物也

一 方連言ニ以禪ト效ト道也人ニ古ノ古今ノ集録
ノ方人ニテハ教者全可分ニ古ノ物也其古ノ集
ノ作者ニ由テハ禪法也人悟者明ノ方人
ノ世ニテテハ物也其世ニ依リテハ音待不

思議ノ時代ナレニヤルヨリテ縁法ヲ又ケテ

一 方七連言ニ依リテ上ノ暇ニテ及ケテ
ナレテハ物言ヲ教者モ流ラニ説ナクヤ大カタ故
ニクモ由ヨリキラヒ物ヤヤ中ニ其私メキ
信ノ物也其言ヲヤセタハ又家上ニヤ其モ一人
ナレニテテ五キニ依ス彼以流クカテニラテウツ
ト夕ノ上ヨリニ信ハチテ由ヨリ信ニテメシテ
洞多クヨリ其信ニ依リカハカリ心ヲシテメテ
思リカケ我ノ理ヲナシ集ニ選ラテ水ヲナカ
ノ林ノ流リヨリテ如クノス夫所用要ナレ

春ノ河スリナキ死ニ休ハ可シシクノ道具モヨリハ今女
ぬニスヘラ春ハアタメカナル物ニ居ニハをモツホメタリ
トイハ尼寺ラ請ニモ休カシク作シテ廉湘ノ景ノ圖
ニモ春ハ約ラスサシハ大方ヤルヘシ

一 春ノ節トイハシ時ニ春トシタレハ比具ニ極ニ付日
カラシトスルヨナリ又サト付ニウカラシトスルヨ
ナカシ

一 上ノニ成ラシト思リシト上ノニキラフハシザラシヤクニ連
カシク任留ヘシ初ノニ思慕ハレシ成信シハシクノ
カラク夕ウモテトトリ四モ入ラ上ノニ成ヘシ上ノナリ
有るノ音想リイハス付テコソト之人モ人ナキニ物モ

知ラヌニヨメ(シタトヘハ)書人ニウロキ御子ニテ
奇リ特ニカケト云ガ如シケニハ此ノ者ニテハハスル後
クシ比如何ニモ休ハカレシキヨメ之上ノノ娘ハ此道
具ノ多クカコモタルウニ理ノナキト又理ノナクハ上セ
俗ニサヒラト云ク付テウキ相上ノ異想ナレハ難義
ナレ知ナシ比都ラ名ヨウノウクモ付知スルヨ毎々アリ
下人ノ名ヲ治リウ林ニタセウヘシ多クノ異相不思義
ノ音月氏ニサヒラタメニ如何ニ思慕シテモ休カ付ニキ
ウツリシキ白ノシカモ我胸ヨリ知ス相上ニ
一 下ノノぬ物氏ノ音ノニ白月ニ音ハ昔ノカサホ
我ノ神祇祓乞ヒタメ又物ニテ人ナリノ時ハ知ス(カラス

カサノヨリノ収ハ其亨と云フイセウニスルニヤ清トシキ
コトニシテシヨルキナラハ毒万歳トトク之者ノテ世万
代サシクノ流リイハ氏誰ノ人カ形務ニサセ
大盤若任仁王経皆地獄ノサタ空ノ理リ之御尼好
ニハ如レ之法余ニ尼依ハ信ラウリノ脇又テ世万代霍愈
神ノイカキモシメ縄杯ハ神リヨニ叶ハシキト云云
君リナ林万歳ト流ノナ代ニ初セニモ古ラ復傷
部トラアリ

セウハウノ子ニ世ノ生タレテハ自年モ好切セ入テ
後カラヒヤセタレハヨシ切心中比トセタハシラスヘシ
忠トニハウツウシク養ト云ハカラヒタレハ是れノ子モ
カハリマアリ

一
上ノウラヒタレハ肝要之但上ノウラヒタレハ其ノ
世ヨリ流ノ子モ養テアラヌ方ノモウヤリヤセカラ
ヒタレクニケルモウキガタキ物ヲマフハ毒リ吞タレ
ルモトモトヨリ上ノウラヒタレハ何ホトモモキ内情
具リ知ラレハ此物トシテ云ハシキ

一
神ノ物ニ用リ付用ノ物ニ神リ付ニ但物ニ言ハシ海浦
云ウニハ色ノ物ナカラ神用ノ物ハ其物ニ言ハシ海浦
物リ付ルニ今交用ハヨキトテハ波水陪杯ニタレハ何ト
ヤラヒヨカラス中ノトダマシタレハ知ナリ

一 能夕ト云ハ我モ知ラス由ト業地ニ兼テヨキ連分セシ
トアラガハフツトセラレニシキト云云

一 連分シハ兼テ時々切テ修シテ更テ其ノ死ニテハカ
トスヘシ平生タシテ久クハ口ニカセラスル抑ナシ
能クハ切也折々ハ時々シル人ノ歳ニ時々ハ修シテ

一 テ汗ヲナガシウツブシテアツクキ業スルハ斤版イタ
クワハ切教奇トハ云ス其ツチ知レニシキト思フガ念
上ノ相子成ラる時心ヲ我カリカウヨリリサケラ

一 指ヘシ其奈チ人ノ云フ上トウツカカトオチカラズ
トオチカラズト連分片同ク
下ノヨリハ兼テ他切久ク云フニ捨キテハ切

一 付レシニ切月ノ骨ヲヤリ又切リ終セタトハ謎ト云地
備ヒツト切ツク報トウクトオチテラ之鬼コト由リトイヤ
サモハ又人コト由リトオチテラ之鬼コト由リトイヤ
トトニ兼テ行クコトヲ云フシトイヤツシハサモハ又ト之切
皆月ニミエス切人ノ連分モ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切
ナトコアラズニハ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切
人ナリハ切キニ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切

備ヒツト切ツク報トウクトオチテラ之鬼コト由リトイヤ
サモハ又人コト由リトオチテラ之鬼コト由リトイヤ
トトニ兼テ行クコトヲ云フシトイヤツシハサモハ又ト之切
皆月ニミエス切人ノ連分モ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切
ナトコアラズニハ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切
人ナリハ切キニ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切

操教切中ノ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切

云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

ナリ云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

海山ト云ハ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切テ切

云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

海山ニヌトトクニシテ
シテ付スグ仕付仕
シテ入テハ教ニ
ル

秋子むけりる風なり

暁稲りるを山印の草の庵

宗和

一 比奥者ヲシテ信テハ上ノ悪用人モ下ノトクニ
ナリモトノ教ヲヒキキルコトニヨリ教カクキ物
ナリハ入テ門者人ノ物ヲ問フコト東ニモ
不使下ん方ハト(是等ノ分別人切ニラト
信持物ニテト斤山印ノ草の庵ニテヨリ院ニク
比乃事ナリナリ付トクを山印ト云々尾尾
一 心ハ洞ヲ殺シ洞心ヲ殺スト古人治テリをト思フ
ナリイタハハ心志ナシイフモノナリ世又ナリ
メハ洞つタナリ常ナクシタタナリ知ス能ク
共洞ハウツクシクヤナシク心ハ氣カラシ
ニあるハ心格タレナカラシ時ハ洞ツクニ
ニテト是ハ秋ナリニテト他人ハノ玉フニ
一 巡ノ連分ナカニテ流クトス(信持
一 汎ニハワロニ再篇ナトモ同ナリ
式ニ書トテナシテ西カラヌイ
ニテスルハ諸人ノ心ヲ

一 心ハ洞ヲ殺シ洞心ヲ殺スト古人治テリをト思フ
ナリイタハハ心志ナシイフモノナリ世又ナリ
メハ洞つタナリ常ナクシタタナリ知ス能ク
共洞ハウツクシクヤナシク心ハ氣カラシ
ニあるハ心格タレナカラシ時ハ洞ツクニ
ニテト是ハ秋ナリニテト他人ハノ玉フニ
一 巡ノ連分ナカニテ流クトス(信持
一 汎ニハワロニ再篇ナトモ同ナリ
式ニ書トテナシテ西カラヌイ
ニテスルハ諸人ノ心ヲ

如ク一水ニ連方ノ心ナスヘキ之類ハ捨棄ノ式ニ書
トヤルニケルラスヘシ

一 一水ニ是ハト書ク連方ニ扉アリ仕出シタル人ノ末ヨハ此
ハ比真ノ物ニ屬スニ林ハ如何ニ扉スヘシ

一 百物ニアル物ニアル物体ノ分別シテスヘシ一ツニツク物ヲハ
ナセシメテナキハナキハナキ又族控任控用ノ物ナラハ
任控トスシ族ノ字様ニ交物ニ或人ノ句ニ

一 尚ヤニ書ク家ノ族人トセシ道ヲシラヌ
在ノ尚ニ是族ノ心ニモクニニノ印ナキ物ニ
一 毎上ノ目キ連方ト云ハ湯水林ヲノムカ如クナリ味ナク

此イハナカヌ物ニ治スルハナキナニ面白クシクヤカテサ
ムル物ニ又カクヤセハトテ惣ヨリナラシムルナリナリナリ
カハナシニラメニ成テ同ノ名物ニ名ハナカレヘシ

一 悪用ノ人ヲ惣ヨリノ名物ニ名トハニドト突ハシムルモ
仕又思ヨラナリナリモアテカクハ必物ニ名ハナカレヘシ
一 此ノ物ヲ惣ヨリノ名物ニ名トハニドト突ハシムルモ
イコクノツノルニ上ノ名物ニ名トハニドト突ハシムルモ

一 七十キクノナキナリノ名物ニ名トハニドト突ハシムルモ
方ハモロクノ名物ニ名トハニドト突ハシムルモ
一 連方ハ上ノトモトモトモ名物ニ名トハニドト突ハシムルモ

付クモ云ナリモスハ胸中ナリ毒ナリ後ナリ
我ノ出ルカク物ニナリナリ水ヲノ後拾ニナラフ
テスメルクニナリニスルナリ石カラスニケク汲テハナバ

一 庶より清水のうへに喜如り他は胸の底にまへに連なり
タシテ執らるるトテ産ニまゝのり物ウリ思ひ白クスワ
ナクスル人物ニ如カクニ私ニ兼載ニ此暗トヤテ白約ニ
一二月ヨリ卯ハ仕人ナリシテ常ニイサタラシ傳りモ有リ
多スル人ニ向テハイカニモ連なるハ案スヨシヤサシ也
連なるノ席ニ雜陳ニ居眠杯る者其力ハ法外ノ限リ笑
ノアツニ如ク帯ノ産モヨスニキリ之拾合痛也白品
面乳余情サシクノエウシ胸ニテハサシ思惟セハ何
るカイニイサヤウニ雜陳ナトる者公ニモタハコトノ
如ゆるシノニシテ白ノ旨思ノ辨ナキ石如ハ返々
口惜キ時歎也

一 宗祇ノ云ハ始ヨリ會席ニ出サレハハ初極ニ来セモワロ家
初ヨリ有ツル人ハ未音初ハテサレニ之名セワコト作レテニ
七ト迄傳リ但ニ佛法者モ文ニ上ナリ或ハ君ニ仕或ハ
人ノ司リ執ルハ杯ハ際ニ席ニ出タレモ理トスレハ
サモアラヌ徒者ノ文ニ用ハ有レニキトモ之ニ物忌ナレ
事ノ外ニ見ニキナレ(之上古ハ産ヲ一交タツ今ハ不思義ノ
ヤウニ傳リシ也
一 百人ノ能クシテ常ニ上下ノ句ノ續キ杯ニテ連なる心
如人毎ニ何レノ方リニテ休ムニスレトノニ必玉ヲモ
返り人言リテハ篇ニ有カラス生得作ノアテヤシ眠

目下人ニハ風雅集玉葉集林又定家也^此意^此初^此書ノ
派ノ數常ニ心ニ玉ヲ入レトヤ^キトウ又ア^リ心ヲケ
テ空ヲカケル抑^ル人ニ^ニ後成^ル也^トモ^シハ^ハ草^葉集
林^ノ見^ル玉^ノト^ク之^レ流^ラル^ル何^レニ^モ新^古今^ニモ^タカ
物^ハ伯^ララ^シト^備心^ノ敬^ハ友^リカ^シテ^ハ伯^心モ^洞モ^用
之^テ實^室ト^リ

一 持^所要^ニテ^人常^ニ也^モ高^葉ヲ^見テ^モ草^本ノ^流リ
派^テモ^後幻^ノ世^ヲ思^トリ^振海^ヲヤ^サシ^ク迷^ラズ^モ
春^ノ曙^林ノ^夕ト^ノミ^トリ^只子^ニス^ルハ^流ル^ル也^ト
去^ノ曙^ヲモ^林ノ^夕也^ヲモ^亦心^ニシ^タル^人ノ^云也^トハ

同^シタ^ル曙^ナシ^ト凡^若列^之キ^ハメ^テ心^ハト^クノ^流ル^ルカ^ニテ
ア^リタ^ルカ^ナレ^バア^テカ^イ洞^ハカ^リ長^キツ^ラキ^カナ^シキ^セリ
イト^ウノ^カツ^捨レ^ル林^云ハ^片版^イタ^クセ^リ伯^心ニ^氷リ
モ^セス^ト又^モ教^成ル^ル衰^ト云^淋シ^キヲ^淋キ^ト云^教
如^クシ^テ靜^ト云^ハ曲^ナカ^レハ^心ニ^ラク^シト^人ニ^又モ^カコ
似^合サ^レ連^分リ^シ玉^フノ^シク^ス心^ノ教^ノ都^ヲ知^テ偏^流人
ト^如ク^テ年^ヨリ^ハテ^名者^ノ今^日明^目ニ^ラ又^心ノ^句ヲ
ウ^ラヤ^シカ^リ若^人林^増ニ^テシ^玉フ^ノシ^キニ^テ人^具ハ^イ
一^ハシ^ク流^シカ^ラニ^テ西^行上^人ノ^林ハ^古人^モ何^レ
カ^ハセ^トウ^シケ^レト^リハ^理ス^レハ^シ
一 分^ニモ^連分^ニモ^分リ^トル^ルす^リノ^心ハ^カラ^ス自^ヨリ

峯をん下りてハヨロシ又其より面影ウカシタハ如何ホ
ト七面白コリ何シニモアハ狂りり其をなむり又ハカ葉
伊勢の洛深長枝をきり休ニヤ如分テ取去り毎
取又ハ乞者ニトテテ知ラサレハ又下りり其ハ
ハ道ハ兵一ちり物トタマハテ暗行ハアカレニ平安
勢ニ思ハカラス

一 十折半ニ事一細折トテアリ思附ハ心ニをテ多
一ニ連テ損セサル程

山径も又や其世よゆらん
川の原のあらしの夏

書同ノ床の声と文行
言破やねは尾上のゆゑ
浦跡〜ともまゆり〜
澤汐挽煙よあじ一層書て

一 け折ニ月ナシ片を考ナレ御ニラト想ハ時ハ如シニ至ハ
ニカシク連テ如何ヤウニモテラ又物ニテト
一 下リハ冬世ノカ分リタレト云フニ事ノ指名ト付水ノ
前ニトイハ流林リ付難ニ心ノ林自ナトハ
菊ノ白トハ
一 菘ノ尾をノ尾ニタシタ河之好ニ玉フハカラス想ノ

時ハ不苦中ニ比ニモ如クハ意ノ白アリノ物ナリト
ウキ人ノ意ニキモ逆ク又ハ信儀名林抄ノ
其ハアタメカドレ物之想ニテ好ナレト下ノハヤモ
スシハ意ノ白アリトス

一 心持モ三聖王初心時ハタニシクウラウシク心カケル
ナレト抑ニス(此中此ニ如テハ奇物也抄本ノ方ヨリ
ヤリテ人ノ身ノヲモ逆カシ人ニモ奇物ト思ハレテス
カニ此(口)ノリノ(口)ニ上ノ(口)ニ如ク入ス(口)ハ
及リ字(口)ヨリ持初心ノ時ノ白アリモ奇物也其モ
深モ深キモ下希ニハ定ニラヌ又抑ニ心カク(口)カ抑ノ心モ
所要ニテ人余信化ヒエヤセタル方ハ上ノ(口)ノ信ニ

自セラレ(キ)也

- 一 田ト云フニ處カ子ハヨシ處ニ田好ムカラス
- 一 脇ノ結搦如ハ口ニ申シ長アリ抑ニ也
- 一 庭ノ草木亦作柳ニテモ人ノ身及ノホトモ如ク物之
繪共信ニテモ結嗜約(口)ニノ草ニモトリヨリ
カスカナレモ心ヲモエラ(口)編ニ白梅竹ノキヨリ
白モラノ月ヨリ見ニ如クノ面鏡ハ面白キ故ニ紅梅ノ
ナリニ指ハ月ノ花トヤウノ如ク好ムカラス
又女子ハ下ノ(口)多クモ物ナリトモ是ナリト上ノハ
及(口)カラス只教奇ト云地夜モ所要ニテハ拓月卷ニ

教奇ト云々印ノ畧抄トヤス名近マイニカクセ本高守ト
定メヤカラテ繪上書テ天下ノスキリト云々サレノ優ニ
玉ヒシ也教奇ト云々ハ師道ニモ云々之抄物モアツレニモノ
以教奇ト云々ノ志忘ルレカラサレレ

一 石佛ノ心敬法下ノ兼載若奉ノ比連方ノ心持ノノ凡為
奉レ折々教玉ノヲレ忘ルレト云々ノ書付テ云々ノ共ノ
物ノ内ヨリレ足知レテレ何レハ凡思ハナリレシレ共ノ
体ノ付テ云々ノ信ノ右カレタレク大切ナリレハレテハ
彼院主ノ申詞ヲ佛ノ山住リノ柳ニ云々ニ及テ人ノ信
作ノヤウノ云々ト凡隨分ノ二庭判ノ杖ノ云々ト凡任ノ進
ノト相攝テノ印ノ云々ト凡同ノ心ノ云々ト凡心ノ云々ト凡心ノ云々ト
ノ印ノ我ノホレモトハストモレ雜ノ染ノ云々ト云々ト云々ト

凡下ニ只洞ニテト云々カラ理ダニ云々トハ肝要ト云々
如レ以レニト云々ノ後ハ惣ノ破レ捨レ玉ノフレヒシ

宗長ヨリ畧抄良殿書任進上ノ

一 連方ノ云々ノ不レ堪ル云々ノ一九年ノ一毛大海ノ一滴ホトモ云々ノ及
ハスト前ノ珠玉云々ノ常レ任ノ院ノ殿ノ注ニ進上ト云々ノ及テ云々ノ初
心ノ者ニハ肝要ト凡ノ又レ成ニ作者ト云々ト及テ云々ト及テ云々ト及テ云々ト
又同ニ作者ノ云々ノ中ニ老ノスサミトカヤ申抄物ノ彼ノ凡ノ中
林ノ道ノノレ導トカヤノ昔ヨリ代々ノ好シ多クはレ玉ノ信レ
只レカ中ニモレハレ勝テ云々ノ及テ云々ノハレアラカシノレ由ニ
想ニテレ連方ノ上ノ右ノ中ノ右ノ世トテレ其ノ世ノ凡ノ情モカシマリ
作者ノ心ノ洞ノ始ノ未ノ付ノ不レ理ノフカキノ淺キ心ノ思ノ銳利奈林
七ノ難ノ彼ノ浦ノノレヨシアシトキメテ伊勢ノレ海ノ玉ノ光

ツミカキ伯見ヤ玄し尾田舎ホトリニハ道知人モク又ニ
カニ邪路ニ入伯ラシハ申申奉りカレハ又ハ其ノ申申
くシキモ其ノ生切者伯ラシ其ノ負見顯ニ付テ
備執アザキリ是ハ人理ヲモヤ伯ラシハ措ケル

此の事も人よさうなりと云はれ
任りや我も傍りといふらん 宗政

ハ理直人ノ力ナラス連立備ケイニモ心切ラスニヤ
十所大辨林申する人尾先初シテハニモ之始り
先忍シテ有ノコトニキヤトヤラシガ抑ノ事ニヤ

此も此に又そのの事
花と人教ぬめのとやおひん

友あり山のこらぬ女
右方のうみ人よせハ花もじ
わつししとるの介の一事
此の故て書と給書の相成

一 想シテ候ナカラシ人先途ヤスルト伯ウケ人ニモ同ア
キラメテ心切伯ラシ自心もトウク申申奉り宗政
兼載林ノ教有ノ一モ付有ノ付本林ハ風情ノクニス
一イアサトリ伯ラシニヤ彼者有ニ

此の故りらんその名も
ヤシ〜ハて涼む山路のあま
右高前出た林の山回

香を留まらばをよはぬありて
松よありて風ありて降ゆり
海をゆく川をゆく
善よはるゝ善ぬかた松をゆく

宗祇ノ文段句ニ

折人ハ心ヲ悔んゆもあゝ
足ぬ人ニとゞやむ心ノ荒れ
夕言とらやん人ノ心ノ後
一舌ノ介りたりと語る
ゆやとらぬ心ノ荒れ
心もたぬ心やとらぬ心ノ後

又兼載コノ西筆ノ付句ニ

心ゆくをゆきとらぬ心
白乳の心をとらぬ心
心ゆくをゆきとらぬ心
心ゆくをゆきとらぬ心
心ゆくをゆきとらぬ心
心ゆくをゆきとらぬ心

コノ心ゆくをゆきとらぬ心
心ゆくをゆきとらぬ心
心ゆくをゆきとらぬ心
心ゆくをゆきとらぬ心
心ゆくをゆきとらぬ心
心ゆくをゆきとらぬ心

連方ハカシ書ノ如クニ信ハ語カニ首モ
信ラセヨ書ニタレリ人々信スニアシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ

林ノ中ヲウラシトヤルトモアテリ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ
信ラセヨ書ニカニ信ニヤ印ハトシテ

最善の天地...
思...
家後

一連方眞行ハる事ハ宗近ノ方ハ
カヤ松ハ谷ノ林ト云ヘヨシハ
思案ニ賜サズ

一 かぞよの三文字トシテは字上ニ於てト留リカタウラスを尾
三ノ字ニテツサハルハ能ハル是モ上ノ句ニ

カノヨリ今トシテハカシコト

音數ハハルカトユテ

致トシテハカノ句ノ句ノ句ノ句

カノヨリカノヨリカノヨリ

一 げぢトシテハ成敷トリスズルノ相ニテトハ成敷

いとけ人トシテハモテハカノヨリ

いとけトシテハカノヨリカノヨリカノヨリ

カノヨリ

一 現在ノ仮名トシテハ是ハ志文字ツリハ志文字ニテト

トハカノヨリ

カノヨリカノヨリカノヨリ

カノヨリカノヨリカノヨリカノヨリ

カノヨリカノヨリ

カノヨリカノヨリカノヨリ

カノヨリカノヨリカノヨリカノヨリ

カノヨリカノヨリカノヨリ

カノヨリカノヨリカノヨリカノヨリ

カノヨリカノヨリカノヨリカノヨリ

かゝぬは初ね拙者の流しをいふれと流す

かゝぬはもうねと文は流すはと 音の ことば

かゝぬのうらこの言は流すは流すは流す

かゝぬはもうねと文は流すはと 音の ことば
かゝぬはもうねと文は流すはと 音の ことば
ニモッノ心所要し

一 かつとつりニモッノ心所要し

かつとつりニモッノ心所要し 習人伝言や相伝や林は皆んヤト
中物ニテ人々文字は年ニまゝなりヤト人々君ハ知スヤ林ハ捨
ヤトヤトカ

田舎流し 田舎のゆや文あつて

是ハ穀ノヤニテ人

一 かつとつりニモッノ心所要し 習人伝言や相伝や林は皆んヤト
ニテ人々ノ何教なり

河内ニヤもまゝの流すはと 音の ことば

けつとつりニモッノ心所要し

おしとつりニモッノ心所要し

あつとつりニモッノ心所要し

あつとつりニモッノ心所要し

けつとつりニモッノ心所要し

草ハ皆 指野のねのゆあつて

いふ拒絶ノト人下ヲ拒絶ニトキ人ハ休ム知レテ平
仁於羽一ニテヨリモナリ也

一 如トクニニテテトハありテキヨムトキテヨリヨリ也

一 毎末ハ敵取技ハ何ありコトナキ也

一 上ト上ニテトテトハありカクテト毎人ニテトナキ
トニニニクトトナキ

一 思ハぬもト別語トナキ也
クタリクナヤウニテ思キヤク
一 ともト毎人ト上ニテ文字 ふるむく志す
一 一セノ節ハ有クカラストナキ

あやしく他ハ語のあやしく也

言さる方より心あるらん也

敵行也を人あしむらん也

あやしく他ハ語のあやしく也

さあ敵ハあやしく也

神口もあやしく也

い等ノ心敬宗敵ニ倍ラヤサシト敵も又ヤサカノ
フシニヤサシトイシテ耳ニラシス知カキテ
るウシ海方ニモラシトバ道ニヤサシト心知
トおこ割者せらしシテ今度ニヨキ心ニカシトテ
先シラスニヤサシテ今度ニヨキ心ニカシトテ
皆他ノ心よりあやしく也

一 分仙連分トテ家魂ノミヲシテハ後ヨリ始テ二十
元ノ方今名染リカクミ越ニテ今今白世セリ有ニ
社素ガ人丸 流川ノ瀧水^{ウズラス}ニマシテ草水 春有
高土月 昔之 山人ヤいつ〜雪ノ岩波 陽
懐考ニヤリ

一 山室ト云ヒニ唐尼^ニ家ノ元氏自御有^ハ約ウシテハ子細ナシ^ニ山室ニ
唐尼(己人ノ名)氏日メシハ^ハ家ノ下^ニ約ニ唐ト付ト^ハ後(カラス)

一 字紙ノ合^ニ葉^ニヨクニテニ^ハシ^ル事
燈^ノ元^ノ事^ハ亦^ハ少^シク^テ長^ク日^ノ野^ニ也
只^ハ其^ノ目^ニ依^ルル^事也^ナリ

初ノ元^ノ事^ハ也^ナリト云^フ事^ハ後ノ人^ト知^ス也
機^ノを^レ教^ヘハ^シ教^ヘん^事也^ナリ^也其^ノ人^ノ
事^ハ也^ナリト云^フ事^ハ也^ナリ

是^レト^知ス
玉^ノ餅^ノの^元の^秋風^ノ事^ハ也^ナリト云^フ事^ハ也^ナリ
形^ノを^レか^キテ^ハも^シ事^ハ也^ナリト云^フ事^ハ也^ナリ
旅^ノ行^ノ人^ニ衣^ヲシ^テシ^テリ^テ漢^ヲケ^リ見^セト^知ス

一 女^ノ事^ハ也^ナリ
中^ノ事^ハ也^ナリト云^フ事^ハ也^ナリ
大江^ノの^名ハ^ヒタ^ラサ^リト云^フ事^ハ也^ナリ
是^レハ^也ナリト云^フ事^ハ也^ナリ

中ノ飯ハ飯ノ岩俣火強ク飯ノ味ハ
方トモ是ノ味
中ノ飯ハ飯ノ岩俣火強ク飯ノ味ハ
方トモ是ノ味
中ノ飯ハ飯ノ岩俣火強ク飯ノ味ハ
方トモ是ノ味

一
アウハニ 我急シクをいづく侍ん 是ハ
侍ヘト子ガイ初之方ニハ我アリ
侍リあゝいづく侍ニハ侍リ
侍リあゝいづく侍ニハ侍リ
侍リあゝいづく侍ニハ侍リ

一
物有れば
物有れば
物有れば
物有れば

一
是ハ物ナレト云フニトカメテ云レ河ノ心ハ是ニキ物アリ
是ハ物ナレト云フニトカメテ云レ河ノ心ハ是ニキ物アリ
是ハ物ナレト云フニトカメテ云レ河ノ心ハ是ニキ物アリ
是ハ物ナレト云フニトカメテ云レ河ノ心ハ是ニキ物アリ

一
我急シクをいづく侍ん 是ハ
我急シクをいづく侍ん 是ハ
我急シクをいづく侍ん 是ハ
我急シクをいづく侍ん 是ハ

一
両方ニ
両方ニ
両方ニ
両方ニ

一
神ノ御心
神ノ御心
神ノ御心
神ノ御心

深くぬゆわの唇の好さしたよこらなる牛らの
月八日

西首のふかこ

病ハ袖ハ物ヲ人々ハ言ハるる事ハ秋のあは
るねと

是ハりよと云ふ

一 あり

清なれとや海とを埋とん若葉ははこ
はちきり

是ハキエとせ又ニトトカメテ

あつらひのよははとよし
付よと

是ハウをホ又ニト云

みちののあまのちすうはめはなれ
我あ

是ハ我エニテハ

一 あり

曾孫の又野の落くら尾をり
カ

是ハいはると云ふ

たのこ物一我の古寺の若のたこ

いっの朽ん名をいけれ

是ハ常ニ人ノ心イハシカシ

カシ

カシハ水ノ声
カシハ水ノ声

是ハカシノ声

カシハ水ノ声
カシハ水ノ声

是ハカシト云フ

是ハカシト云フ
是ハカシト云フ

是ハ目ハト云フ

心敬ハ傳抄後書

一 此ト云フニ云ト付(三)琴今ニ松也糸ニ柳也白也此ト付柳ニ

糸松也ニ柳今柳付ハ相接ナ比鳥也

一 古寺ト云フニ鐘ト付又旧院新院柳付ハ今を輪廻スル也

一 此ト云フニ梅ヲ付シテカシカニ如ク梅又付テカウニ初マハ

不叶也

一 扇唱ト云フニ扇唱ト云フニ扇唱ト云フニ扇唱ト云フニ

扇唱ト云フニ

山ニ云フニ

山ニ云フニ

一 成人云ノ夜ノ月唱トセシテ月下ニ月交ト云フ玉ノリ

ケニモ是ノ月ノミヲクニハ解悟ナシ共ニ夫ト云ハ是故ノ事
 標あり づれん南の標松の言と下リハタリ
 尾ノ紅葉ノ對ナラハ言の松ニテコリ物ヲメ
 竹ニクキ物ノミヨリ物ヲ 名業ソク、 山夜 卯也
 付ノ海ノ 春ノ卯二月ノ卯ノ卯ト云
 月ノ卯ニ 庭松ニキクノ 卯ノ卯ニテヨクハ
 卯也 卯也 卯也 卯也 卯也 卯也 卯也
 ウツクニキクハウツクニキクハ
 標唱て川著るる、秋の山
 け卯ハ標カナレ物ニ又ニキクニテハ卯也
 又旗カニテヨスヘシ

花は梅を方音よなり

一 氏の白ニテ 菊のシバウツヘシ
 一 スコニコリ 文字田舎人ニキクハスニ 冷シキ カヅク
 妻ノ夜 仙傳姫 三田姫 山姫 摺姫 一子カ
 子山 駕川 川姫 山姫 白スウモ ヒサギ
 瀧ノ子キジタケ 一子グ 道ナニメケ
 一 住ノトスレハ 任吾ト云ヨリハ 出立ナリニカレトテ 任ハ深
 トニケテハ 口シ任吾ノ 鉢也 (ニケ 分別ニカクヘシ
 一 西靴ト云ハ 二カヤ系ヲ付ハ 真母ノカヤ系 西靴ニシテト云
 目リニタタリ 御ウチ 御野ノカヤ系ト云ハ 二西靴ト

自こるの口口シタトハ路路ノ子名ニ思ヒノ東林自りあり
能くする之方ヲ忠地唯之但又布方ヲチテノ問答之
タレるノ事ニ夫ハ又別ノ事也

冬ノ梅ノ花連分ヒニアタカニカニスカラスヤセ括テ空氷ノ中
ヨリ一花咲クハ感懐甚

名は本ト云ハカト云ニハツト也
様カリ雨ハ海キ又ハ多様カリト少字ニ成テヨムト之説
アリ比真ノ事之如如言リ他人ニ物ヲ示マシ

臨ノ由ハ世俗ニテトスハ一月ニ同家ニカラス文ヲ書テ
ス林スガラスケウナレシフサグハワロシフタグトス也

一 篠ノ葉林ノ寸ヤグトハ由ノ女ニ作ルハ神ノサガハ甚クハ
タレ神ノ是神ノ分ハ所要也

一 一ノウツロウノ林云有ニ由ハ吹名林ト付ル事ウツロウ
クハ神ノ神ヨシ安事ウツロウノ事トハト也

一 一ノ下ニハナリカシクニ流レト云ハ神ノ物ニ細ク教ノ字
務合林ト云ハ流レト云ニ流レる事ヲ思案ス也
一 妻の妻の友林ニ云レるウツロウト感懐深シク是意ト
云キテ林ノ心ニテヨスハ是意ハヤサシク安事ハ心ヲカシ
妻ノ妻ノ友ト云ハカトキ法ナレるウツロウカレル事ハ
神ノ流居ウツロウ流居ル事ハ借リ流レシキ事也

又其ノ部ト信ラシニ意ヲ尋テテノ事ハ如何ニシテハ其ノ
事ノ秋ノ末ハ自ニ冬ノ末ニテ其ノ感懐アリ

如指テ世ヲテるニテハワロシ

在ノ際 蘇由ヨロシカラ又河之徒をノ流深林ニシテ
ケルヨロシ

連方ニテ其ノ毎及トニテアテテ其ノ物方毎ニテ入字
コトニ業ス

河ノ向ニ流ノ事ナシトヤトリテテリアリ園生ノ業ト
ヨメハワロシ園生ノヲハヨシ

河邊林ニテハ自ニ柳ト付テ庭地ノ口ニ地灌之
梅ニ山室ハ自人ニ山室ニ梅ニテリ

田ニ業居リハ自ニ業居田リ付テテテテテ

思ヒテ恨テ梅云フノ字付ニテハ自ニテテテテテテテ
流テ置メテ河ニ

万葉ノ物ノ根深ニテハ有カラス伊勢也他又事ニテ
一ニ深也他ハ和字半ニテ下リヤ他ハ下リノ事ハ

新古今世ニテ後鳥羽院ノ時代ニテ自人担ヒリト迄ニ
意ノ存スルノ事ヨロシカラス故テテテテテ

老後也ハ如何ニテモテテテテテテテテテテテテテテ
時ノ如リヨロシニテテテテテテテテテテテテテテ

ノ庭判之

一 惣ノ人イッ完舎席ニシテ格知ルハ河野ノスカラス所
版イッキ物ニイッソノノニカセテ申スルヲ知ズル
是ハ初ノ人ノ教ナリ

一 連ガ面ノ為ニ格知ルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
野分モツル格知ルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
若シ

一 以テアガラト思フ知ルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
ナキアテキナキ知ルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ

一 世俗ニモツル何ニテモツルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
分ニヨリテモツルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
知ルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
橋梅路ハ知ルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ

宗廟句

秋ニキケテハ本格ナリ
唯 福守を山下の草の庵ト爲ル

一 以テ片山陰ノ草ノ庵ト爲ルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
云ハニヨリテモツルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
ケテハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ

一 旅ノ末 野系 ヤリクス 橋野ニ 林サイルスカラスフケ
サビタニ物ナリ

一 連ガハ初ノ人ノ教ナリ
下ニヨリテモツルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
乃永初末代アカレハカラスハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ
そヨリテモツルハ河野ノ為ニ分ノ創ノ河野ハ

一
ナリナリハナ日當旁リツム凡百ノ的所ニカシトキ
連分合帯リヤウジニキホニタケナムシカヨクニキルニ
テハ叶(カラス)スミシテ何ニカセコ容後見シカラス鳥情
子片カシラニカツキテ相ホカウカニカシ音賦リ言吹反々
ニ苦ミキコ家初カシシハ連分ノ人教初リコ又ノ来ニセリ
ヨシ知ヨリアム人ノイヌセリロトヤセニ成ニ成ニ是ニ
昔ハ音初ニ内ニ成リ一モミ信リハ思候也リニヤ食リ
利ノシケカラシ人々今ノ一ニヨリナシテ知(シ)ニ物モ他
一ニナリテハぬニキルナリ御九日ニ交採ニテヨリモス
伯ラニハ何ナリニ信ニキ楊枝ノ定ケリノ箱ノカナメ入
ヒラキヨシ林人ノ世ニ備ニ傍若無人ニモ似たり凡ソ人
ハ交ニ成及リ人ノ心ニオカシリヤ食ノ合ノシコホレ
ナキニ成リトメニナシテスルナラハ相ニ信ラス

一
音乃リ藝能ノ一物ニ吾人信テ習フアカニキ楊ヤハヤ
ニキルノニ成マシラニ成(シ)人リキラクニ成マシラトシテ
音乃リシラ又ハ本ニ成カヌモナラ又成ノ
一
柳連分ニ合食トシテアハトアナカナニ束テ付ルヨリ
カラス其れニ合シムトシタレハ具足ホリキヨリテ一
信モナラ又ニ成(シ)作ラセタレハ古キ物ノ成集メタレ
只集メノ成ニ成テ交トリリ各物ノ成カ知シハ人ノ同
シニスルナシ知レる号合ホト連分ノアタメハカラスト
ラリ信音スルニ的ニ服ワカレハ我メハヒツモシカタ
口ニカラス的ハ今ノ成トシヤ成テ我成リタメト教カ知
連分モ成白モトシヤ成テ成テ成テ成テ成テ成テ成テ
成テ成テ成テ成テ成テ成テ成テ成テ成テ成テ成テ成

中三比

物ニテズラ（ん）
敢とんて（ん）
渾ま〜月の恨ん今方分
物ニテト（奥）
又やんんをよ報ありて
まゆとあはをよ〜

中四具

洞（ん）
いほとんん六（ん）
音のきも（ん）
桜ちるも陰ハ秋の（ん）

中五體

心ハ（ん）
イハフ（ん）
神の守指や代この（ん）
氣作くせハ（ん）

中六頭

一切（ん）
りな（ん）
りな（ん）
りな（ん）
りな（ん）
い（ん）

泥^泥え
り^りを
ぞ
か
や^やハ
よ^よせ^せ
て^て

名をさるる月やかつをちつん
かけ清し桐の葉ころく秋の風
しら雪の庭ハらのちうとをし
あそむゆれハくくろ 初梅
秋なりし雪の氷の下あそぶ
何事やハ初雪の小花は
深きよをの木のちのまのぬ
そわつせあそぶここの片はぬ
白をわてしし神まて 雪の梅
雪はてをよ敷くく 下あそぶ

い^いま
い^いは
け^けれ^れ
な^なれ^れ
い^いは
ぬ^ぬ

月いろよよちやこの枝のぬ
今年たよちのまにハくまのぬ
かけあそむあそぶまのまもま
いぬれあそぶくくよあそぶ
さうぬるとしあそぶまのま
ま葉より白くまのまの梅のぬ
たつ雪の糸の月を何事
花ハくくまのまのまの秋の菊
雪のまのまのまのぬれぬ

く
い
く
め
う
う
す
秋
深
す
紅
葉
の
月
の
小
米
の
飯

右の如き中未の文字を合別に置かたきるの事
一三三切

あなただしとま目のみくまはは
雲部入向のなは秋の向
山に只岩木の常きのみ

をハ奴柳ハ整ふと可はぬ
かへぬハ花の松向きのみ

た白くもやまの葉は
あつちかへりて流るん

右志との夢人よしむるを

梅の香は清らなりけりや白牡丹

是不憂物之能く分りたし

一二字切く昔は名取今も月々

をや一しゆり神んわも陰に

おん八世は恨ん母をあし

二三字切く

おとうな男やこりんまの庭 紙

おつとよしはしはれねの香

一かざる

おん一もおんおんわいひか

一況をの香あり

一書はめりひさし一何名

おん一まごんをのあを梅

一未末をの香あり

よもちりしりくろふの山梅

高きしゆねはるか一何名

一かざる

おん一おんおの思りん老のま

おんおんおんおんおんおんおん

おんおんおんおんおんおんおん

梅

梅

梅

己後せハ
も無事人知ハ柳様ハ

己後せハモト
而世中人もらら浦のなをん

驚くもかひいよ波
あつこく水も危むる其母

一百人ノ女房ヲ安ク御用ニ交ハ娘

ふかく夏もまきよの行

いさかひあつてそこのなまのむ

夏よと相おの番あつ水のみ

もの番あつねむの神も

あつ葉よあつあつし柳

一待心りな

あつこちよめて處の女事

煙を直る回

銅川れ煙や柳まれ

清池遂日水煙深

君のあつ折あつ柳

三平持
歌列ハ辺館ニ柳葉

一柳心あつ

あつねあつあつあつ庭の

庭の草生柳葉三平の

橋よあつ柳のあつ

深き草花の宿り言ヲ拂ハサセテ云々

一 秋の夜白く中三三よしてトおもふ

秋の夜をさす夜は静か

いそひにや分り又もさへはトスリクをたにこめ
娘

言ハと細きねう入本のたすこよして

いそひにや思ふこめ

一 陽中三三よ

陽の中を三三カイフ時音ウカこ又ハ音ト
情るにやモトこ三三有ニヨリじゆん長を
こつろふかおはなすりしり又も

梅の人の心よの月

まゆり梅の宿り言

浦のついで白きを夜の色

石の山よ命入 鳥歌

まの目のこらけ梅を唱て

まゆり月よの梅の秋の色 長

奔流川 言ハよすの流き 歌の音 碩

いそひにや分り又もさへはトスリクをたにこめ
子言唱 梅の宿り言の宿り言 長

一 洞の残る言のり

山はよかられてまきの月もあ
梅の香よもたれて出る朝もあ
物もよも来てらんぬに花のりもあ
ゆもよも来てらんぬに花のりもあ
ああよもよかられてまきの月もあ
山はよもよかられてまきの月もあ
野はよもよかられてまきの月もあ

一合席遊む主人のさかづき白敷のさくら限に依りて
お定（この時）主人のさくら其のさくらにさくら下上三台を余
七人のさくら（この時）遊む遊む折にさくら（この時）

ノ分別のり一紙のり（この時）又男一人
同じさくら（この時）さくら（この時）さくら（この時）
この時（この時）さくら（この時）さくら（この時）
ゆらゆら（この時）さくら（この時）さくら（この時）
さくら（この時）さくら（この時）さくら（この時）
さくら（この時）さくら（この時）さくら（この時）

一紙のり

一紙のり（この時）さくら（この時）
さくら（この時）さくら（この時）
さくら（この時）さくら（この時）

宿跡をたどりぬやあつて
夕日からぬのしらの里
村をきく横一すしそよぶさ

一車篇ノ句

人ともくねを草一の系
石也色は柳字の夕潮の目清て
虫の音もあつそつのおもはせ
羨の行は秋風はさく

一二ノ行ノ句

よ年のり暮の秋の白鳥
文行ハ海山とるれも月まきそ

三井よさくね暮の雪声
まゆりちき那のまうはに
理方もたけやぬ老の衣
まふ人さつらさの
まふいつらり羨のまゆ
言はあつ暮の衣をまふ
まふは陰やむ人の法をて
まふは山うらの
まふはかき風の柳みよとて
朽かきそな流の堰を

水致有り根有り柳長くして



